ninoyu satoshi
発行所:自由民主党京都府参議院選挙区第三支部
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310
発行人:二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。　題字:栢木寛照

えとす

平成30年 No.302 3月号

京都の智恵を日本に活かす。

二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

盛り上がりに欠ける知事選挙 2極対決の可能性濃厚

活力京都決起大会3千人が参加

3月3日、「活力ある京都をつくる会」の西脇隆俊を励ます総決起大会が、京都市左京区岡崎の「みやこめっせ」で開催された。午前11時の開始であったが、京都府下各地から、多くの人が参加して、用意していた2500席が一杯となり、500人余りが立ち席の状態となった。「活力京都の会」立石会長の挨拶に続き、山田啓二京都府知事、門川大作京都市長の来賓挨拶に続き、自民、公明、民進、希望、そして立憲民主、連合京都の代表が、西脇氏への激励挨拶を行った。最後に、西脇氏は「長年培った行政経験を生かして、生まれ育った京都のために、頑張って参りたい」と決意を語った。3月22日の知事選挙告示まで、あと1週間。名乗りを上げている西脇隆俊氏と共産党推薦の弁護士福山和人氏との2極対決となる様相が濃い。それにしても、両陣営のポスターも少なく、事前の街頭宣伝カーの姿もあまりなく、京都市内では、選挙の雰囲気が全く感じられない。過去の激しい京都府知事選挙を知る人にとっては、全く様変わりである。

決起大会で決意を表明する西脇隆俊氏

恒心

★奥田幹生元文部大臣が亡くなった。同じ京都市会議員の経験者であるが、年代も違って、そんなに深い付き合いがなかった。新聞記者出身の先生から、時たま、電話で私が発行する「えとす」を見られた感想をいただいた。★「君の文章は、である調で、偉そうな感じがする。ですます調に変えたらどうか」と言う趣旨の話が、多かったような気がする。自分の文章のスタイルはなかなか変えることが出来ず、先生の助言を生かすことが出来なかった。★今年の1月20日過ぎだったと思うが、朝早く、自宅に先生から電話がかかってきた。「知事選の後継者選びで大変だと思うが、君もよく知っている西脇尚一(元市会議長)さんの息子で、国交省で幹部になった者がいるのだが」という要件だった。私は「彼も有力な候補者の1人です」と答えた。★結果は西脇さんとなった。奥田先生は知事選挙の行方が気になるのか、2月中旬、入院先の病院から、西脇候補予定者の事務所を訪問され、西脇さんを激励された。私は、先生は元気でおられると思っていた。★知事選の告示まで、あと1週間余りだが静かである。かつての知事選挙ならば、この時期、朝から夕方まで、各陣営の宣伝カーが、候補者の名前を連呼して、都大路を走っていた。各家の郵便受けには、毎朝宣伝ビラが入っていた。それほど、知事選はすざましい戦いであった。★京都府政の方向転換を決めたのは、林田悠紀夫参議院議員を擁立した昭和53年の選挙であった。それから40年。西田吉宏、奥山茂彦、野中広務、奥田幹生といった当時地方議員として第一線で共産府政と戦い、活躍した政治家達は鬼籍に入り、誰もいなくなってしまった。時代の流れの速さに驚くばかりである。

大詰めを迎えた憲法改正論議

9条をめぐって議論百出

自民党憲法改正推進本部は、来る3月25日の自民党大会に向けて憲法改正案を熱心に議論している。中でも、自衛隊を憲法にどう書き込むのか、党内でも色々な意見がある。さすがに、自民党内には、自衛隊は憲法違反であるという意見はないが、9条にどう書き込むのか、各議員の意見はまちまちである。その上、自民党の支持者の中にも、9条改正は慎重にしてほしいという声も多い。二ノ湯議員の自衛隊に対する日頃の見解は次の通りである。

「憲法の前文には、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意したと書かれている。崇高な理念であり、そうありたいと誰もが願っている。しかし、現実の国際社会は極めて厳しいと歴史が教えている。ベルギーはかって、「永世独立中立国家」として保証する国際条約を成立させた。1839年5月、英国、フランス、ロシア、プロイセン、オーストリアが条約に調印した。しかし、ベルギーの中立は、第一次世界大戦と第二次世界大戦でいずれもドイツ軍によって、破られてしまう。さらに、日ソ中立条約を締結していたにも関わらず、終戦直前に、満州において、ソ連軍の奇襲攻撃を受けた事を、日本人は歴史の教訓として忘れてはならない。厳しい現実の国際政治を直視する必要がある。憲法9条の1項を素直に読めば、国際紛争の解決の手段として、武力を行使しないとなっている。2項の武力も持たない。自衛隊も持つことができないというのは、普通の人の理解力からして当然である。しかし、1項でいう国際紛争を巡って、色々の考えがある。これは、侵略戦争を放棄するという趣旨であり、他国からの侵略に対して、自衛のために、武力を行使しないとまでは言っていない。したがって、2項は自衛の為の戦力を保持することまで憲法上、禁じられていないと解釈するべきであると考える。更に、1956年、日本は国際連合に加盟した。国連に加盟した以上、世界の平和と安定のために、加盟国の義務と責任を果たすことは、当然のことである。他国の平和維持のために、国力相応の犠牲を払うことは国際社会の常識である。そのためにも、実力組織である自衛隊を持つことは、国際法上認められている。憲法の条文を振りかざして、自衛のための武力行使はもちろんのこと、集団的自衛権も認められないと声高に主張することは独立国家として、到底諸外国の理解が得られない。さらに、憲法66条には、内閣総理大臣その他の国務大臣は、文民でなければならないとなっている。文民の定義とは何か。昭和48年12月の、衆議院の委員会において、政府委員は旧陸海軍の職業軍人の経歴を有する者、自衛官の職にある者と答弁している。しかし、今や旧陸海軍に所属して職業軍人が国務大臣に就任することはあり得ない。それに抵触するのは、現職の自衛官だけである。自衛隊が憲法違反で、存在が認められないとするならば、66条の規定はおかしい。GHQは憲法上、日本を非武装国家と明記したが、独立国家として日本も何時か軍隊を持つであろうと、この条文を付け加えたのではないか。」

急速に進む韓国、北朝鮮の接近

両国の狙いはどこにあるのか

南北首脳会談に続き米朝首脳会談にまで発展しそうである。急速に変化する朝鮮半島情勢、まさに「複雑怪奇である。」二ノ湯議員の見解は次の通りである。

「平昌オリンピックに北朝鮮は、凍結状態にある南北関係を改善するために選手団を送り、さらに金正恩委員長の妹と金永南最高人民委員会常任委員長を派遣した。韓国は北朝鮮代表団を誠意の限りを尽くして、手厚くもてなした。3月5日、韓国側の特使団が平城を訪問した。北側は会談の後、晩餐会を開き、金正恩委員長が4時間にもわたって、最大級の歓迎をした。特使との会談の結果、韓国、北朝鮮の南北首脳会談が、4月末、南北の軍事境界線板門店にある韓国側の「平和の家」で行われることになった。日本、アメリカから見れば、韓国の文在寅政権は北になんと甘い態度を見せるのか、ほほえみ外交に騙されてはいけないと警告する。何故この時期に南北会談が行われるのか。4月末頃は、米韓軍事演習の真っ最中である。北は軍事演習に反対もしないし、強く抗議もしない姿勢を示している。会談によって、北朝鮮は韓国に、米国と北朝鮮との対話の仲介を求めていくと予想されている。米国は北朝鮮が核を放棄するまで経済制裁を解除しないと強硬な姿勢を示しており、軍事行動も辞さない構えである。その場合、米国の圧倒的な軍事力の前に、北朝鮮の体制は崩壊するが、韓国側の経済も破綻し、世界的な危機を招くかも知れない。したがって、アメリカの最悪のシナリオを恐れているのは、北朝鮮であり、韓国もおびえている。その時には、米韓同盟も破綻し、韓国における中国の影響力が強くなってくる。日本はそのことも十分考慮しなければならない。南北関係が急速に接近した背景には、韓国、北朝鮮の共同の主導権によって、米国と北朝鮮との対話に持って行きたいと考えている。しかし、口先だけでは、米国を説得出来ない。非核化について、何らかの米朝合意がなされなければならない。日本も米朝の対話に積極的に努力する必要がある。何はさておいても、今なお多くの拉致された日本人が、北朝鮮にいることを忘れてはならない。北朝鮮は、日本に対して、北朝鮮カードを切り、米朝対話の斡旋を強く求めて来るであろう。」

～安心　いきいき　京都力～

継承と発展

新しい時代の京都とは

私は国土交通省、復興庁などの経験を活かし、明るい未来の京都を切り開きたいと思っています。キーワードは3つです。

まず一つ目は「安心」です。前例にとらわれない先進的な防災・減災害対策の強化、社会保障の充実により、安心・安全な京都を実現するとともに、共生社会の実現を目指します。

二つ目は「いきいき」です。中小企業の支援の充実により安定的な雇用を実現するとともに、特性を活かした持続可能な地域づくり、農山漁村づくりに取り組むことにより、全ての人がいきいきと暮らせる京都を実現します。

三つめは「京都力」です。京都力の発揮によって地方の立場から変革をリードする自立した未来の京都、国内外ともに文化首都と認める京都を創造します。

今年は明治維新、京都府庁開庁150年の節目の年です。50年後、100年後をにらみ、オール京都で新しい時代の京都づくりに挑戦したいと思います。

にしわき　隆俊

活力京都

西脇隆俊君を励ます会　東京で800人が参加

西脇氏が在職していた国土交通省関係者が呼びかけて、京都府知事選挙に立候補を予定している西脇隆俊氏を励ましそうと、3月9日、東京のホテルグランドアーク半蔵門で盛大な「励ます会」を開いた。西脇氏は長年、霞ヶ関の中枢で働いていただけに、幅広い人脈を持っており、出席者も多士済々の顔ぶれであった。西脇氏は中央官庁での経験もさることながら、多くの有力な人たちとの交友関係があり、今後の京都府発展に生きるのではないかと期待される。会合には、自民、公明、民進、希望の国会議員も出席した。先ず、出席の国会議員を代表して、先ず伊吹文明衆議院議員、石井国土交通大臣、吉野復興大臣が順次挨拶し、地元京都の政党を代表して、自民党府連会長の二ノ湯参議院議員、公明党京都代表の竹内衆議院議員、希望の党の前原衆議院議員が挨拶、その後、西脇氏が決意表明を行い、増田寛也元総務大臣の乾杯の音頭で、西脇氏夫妻を囲んで懇親した。

京都府連を代表して挨拶する二ノ湯議員

西脇氏へ各党の推薦相次ぐ

京都府知事選挙に立候補する予定の西脇隆俊氏に対して、各政党が相次いで、推薦を決定している。先ず自民党は2月19日、国会内の自民党幹事長室で、安倍総裁から西脇氏に推薦状を交付した。その後、公明党、民進党、希望の党、立憲民主党も相次いで、西脇氏を推薦候補者と決定した。

安倍総裁から推薦状を受け取る西脇隆俊氏

故 野中廣務先生 お別れの会

ご案内の通り、元自民党幹事長、野中廣務先生におかれましては去る1月26日満92歳にて永眠されました。先生は、地方政治、国政を通じ、地方の活性化と国の将来を見据えた幅広い活動に取り組まれ、多大な功績を残されました。ここに故人のご功績をたたえ、追慕と謝意を表するため、自民党京都府連はじめ、関係団体とともに下記のとおり「お別れの会」が行われますので、ご案内申し上げます。

一、日時　**平成30年4月14日㊏**
開会　午前11時

二、場所　**ホテルグランヴィア京都**
「源氏の間」
京都市下京区烏丸通塩小路下ル
JR京都駅内
電話（075）344―8888

※弔電、生花、香典はご辞退致します。
※平服でご参列下さい。

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会
年会費　1口1万円
入会申込・お問い合わせ先
二ノ湯さとし事務所　☎075-315-2228

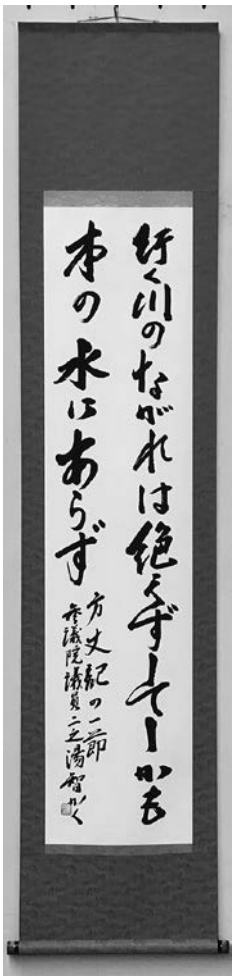
二ノ湯議員、西京高校卒業式で祝辞
優秀な卒業生の前で緊張

平成28年6月、二ノ湯議員は母校西京高校の同窓会会長に選出された。会長は3月1日に行われた卒業式で、約4分の祝辞を述べた。要旨は次の通りである。

「皆さんは、京都でも有数の進学校である西京高校を自ら選択し、入学されました。西京高校の教育方針は「進取・敢為・独創」で、失敗を恐れず、何事にも挑戦し、自らの考えで道を切り開いていく人材を養成することと聞いております。中学校からの方は6年間、高校からは3年間、学校生活において、友情を育み、勉学、さらに部活動を通じて、西京の教育方針を身に付け、立派に成長されたことと信じております。今後、大学はじめ新しい世界で、西京高校の崇高な教育方針の中で培った心意気で、頑張って下さることを期待しております。私たちの母校、西京高校は、明治19年に創立され、幾多の変遷の歴史を持っております。先輩の方達は、歴史と伝統に輝く高校の卒業生としての誇りを持って、勉学、スポーツなどに大いに力を発揮して、卒業後は各分野で活躍されました。人生100年時代を迎えようとしております。しかも、今日、時代の変化はめまぐるしく、長い人生には、山あり、谷ありですが、教育方針の「進取、敢為、独創」を忘れることなく、常に勉強を怠らず、人生を生き抜いて下さい。」

祝辞を述べる二ノ湯同窓会会長

二ノ湯議員、書道展に出品



二ノ湯議員は書道を習い始めて、7年近くが経過した。一向に上達しないが、生涯学習と思って、根気よく練習している。議員が所属している眞龍書道会の第5回展覧会が、2月下旬に大阪天王寺にある大阪市立美術館で開催された。多くの会友が見事な作品を出品されている。二ノ湯議員も下手な字であるが、恥を顧みず、賛助出品した。今回は鴨長明の方丈記の有名な冒頭、「行く川のながれは絶えずして、しかも本の水にあらず」を題材にした。

身辺雑記

一、開催の準備不足等が、ささやかれた平昌オリンピックで、日本チームは史上最高の数の金メダルを獲得した。日本女性の活躍、そして羽生選手のけがを克服しての2回連続の金メダル。期間中、日本国民を感動させた。

一、ロシアのプーチン大統領が4期目の選挙に臨む。中国では、憲法を改正して、2期10年の任期を撤廃し、長期政権を目論む。一方、米国はホワイトハウスから、次々とスタッフが退職する。米対ロシア、中国の指導力の差が気になる。

一、中国の軍事費の膨大な額には、驚かされる。アメリカと並ぶ軍事大国を目指すというが、中国経済がいつまでそれに耐えることが出来るのか。日本としても手をこまねいてばかりいられない。将来にわたって厄介な問題である。

一、アメリカ・フロリダ州の高校で、銃乱射事件が起き、先生、生徒17人が犠牲となった。そのたびに、銃規制が叫ばれるが、全米ライフル協会は、よほど力のある団体なのか、銃保持の規制がなかなか進まない。

一、先日、東京国立博物館に足を運んだ。目的は「仁和寺と御室派のみほとけ」の鑑賞である。国宝、重文が所狭しと展示されていたが、仁和寺は私が住んでいる学区内。これほどの寺宝があるとは、知らなかった。まさに灯台下暗しである。

一、新幹線は日本が誇るべき高速の鉄道である。開業以来、事故らしい事故はない。世界に誇る日本の技術だと思っていたら、川崎重工業製造の車両の台車に欠陥部品が使用されていた。一つ間違えば大事故に繋がり、国の信用を失墜させる。

一、いつまでも尾を引く森友問題。今頃になって、財務省は文書の書き換えを認めた。国税庁長官の辞任、近畿財務局の担当職員の自殺。国民の政治不信は高まるばかりである。強気な国会答弁を繰り返してきた安倍首相の前途は険しい。

秘書を募集しています

二ノ湯智事務所では、4月末で秘書が退職する予定です。そのため、男性秘書を募集しております。勤務は京都事務所で、京都市内、もしくは近郊にお住いの方。身分は公設第2秘書です。「えとす」を購読者の方で、もし心当たりの方がございましたら、ご紹介下さい。年齢は35才～60才までで、5月の連休明けからの勤務となります。